

平成 29 年 2 月 27 日  
住友生命保険相互会社

より良い子育て環境づくりで優れた成果をあげている団体・個人 15 組と  
子育てをしながら人文・社会科学分野の研究を行う女性研究者 10 名を選出

## 文部科学省・厚生労働省後援 住友生命社会貢献事業 第 10 回『未来を強くする子育てプロジェクト』受賞者決定

### 【子育て支援活動の表彰】

- スミセイ未来大賞・文部科学大臣賞 1 組  
**NPO法人 たいようのえくぼ（沖縄県浦添市）**  
～「沖縄の子育てをもっと楽しく」するために、ママたちが企画・制作するフリーペーパーを発行～
- スミセイ未来大賞・厚生労働大臣賞 1 組  
**給食人サークル（京都府京都市）**  
～離乳食を通じて子育ての悩みを解決する「まちのきゆうしよくしつ」を開催～
- スミセイ未来賞 10 組
- スミセイ震災復興応援特別賞 3 組

### 【女性研究者への支援】

- スミセイ女性研究者奨励賞 10 名 ※受賞者一覧は次項をご参照ください

住友生命保険相互会社（社長 橋本雅博）は、平成 19 年からより良い子育て環境の整備にむけた「未来を強くする子育てプロジェクト」に取り組んでおります。

この一環として、より良い子育て環境づくりに取り組み、優れた成果を上げている団体や個人に贈る「子育て支援活動の表彰」と、人文・社会科学分野を専攻し、現在子育て中でもある女性研究者を支援する「女性研究者への支援」の 2 つの公募事業を実施しており、これまで過去 9 回の表彰を通じて、95 組の子育て支援活動と、91 名の女性研究者への支援を行ってまいりました。

第 10 回目である本年度は、子育て支援に資する諸活動を行っている団体・個人 190 組、育児を行いながら研究を続けている女性研究者 126 名の応募の中から、以下のとおり 15 組の活動と、10 名の研究者支援を決定いたしました。

また、表彰式を、平成 29 年 3 月 6 日（月）にホテルニューオータニ東京にて開催いたします。

各募集事業の概要・受賞者については、次頁の通りです。

## <第10回『未来を強くする子育てプロジェクト』受賞者一覧>

### ◎子育て支援活動の表彰 15組

#### 【スマセイ未来大賞・文部科学大臣賞】

- NPO 法人 たいようのえくぼ（沖縄県浦添市）

#### 【スマセイ未来大賞・厚生労働大臣賞】

- 給食人サークル（京都府京都市）

#### 【スマセイ未来賞】

- 特定非営利活動法人 田舎のヒロインズ（熊本県阿蘇郡）
- 特定非営利活動法人 ぎふ多胎ネット（岐阜県多治見市）
- KOPA (Kids Outdoor Play Activity)（東京都世田谷区）
- NPO法人 女性と子ども支援センターウィメンズネット・こうべ（兵庫県神戸市）
- NPO法人 ソーシャルデベロップメントジャパン（東京都足立区）
- 特定非営利活動法人 多文化共生センター大阪（大阪府大阪市）
- チーム WeB（兵庫県姫路市）
- 特定非営利活動法人 未来図書館（岩手県盛岡市）
- 特定非営利活動法人 ユースコミュニティ（東京都大田区）
- 一般社団法人 ユメ・フルサト（愛知県豊田市）

#### 【スマセイ震災復興応援特別賞】

- 特定非営利活動法人 青空保育たけの子（福島県福島市）
- NPO法人 子育て応援おおきな木（熊本県上益城郡）
- 相馬助産所（福島県相馬市）

### ◎女性研究者への支援 10名

#### 【スマセイ女性研究者奨励賞】

- 飯塚 真弓さん（群馬県片岡町）
- 井家 晴子さん（京都府京都市）
- 井上 直美さん（千葉県千葉市）
- 菊池 美由紀さん（愛知県名古屋市）
- 澤田 彩さん（大阪府大阪市）
- 嶋内 佐絵さん（東京都大田区）
- 張 勝蘭さん（神奈川県川崎市）
- 盧 回男さん（神奈川県川崎市）
- 伏見 裕子さん（大阪府高槻市）
- 横山 晶子さん（東京都杉並区）

## ◎子育て支援活動の表彰 15組

### スミセイ未来大賞 2組

#### 文部科学大臣賞

##### ■NPO法人 たいようのえくぼ (沖縄県浦添市)

～「沖縄の子育てをもっと楽しく」するために、ママたちが企画・制作するフリーペーパーを発行～

県外とは文化も気候も異なる沖縄では、一般の育児誌に掲載されている情報だけでは、参考にならないことも。そのため「沖縄の子育てをもっと楽しく！」をモットーに、沖縄の実態に即した子育て情報誌『たいようのえくぼ』を発行。紙面ではレジャーなど楽しい情報から社会課題などの硬派な話題まで、沖縄で子育てするうえで知っておきたい情報を総合的に紹介し、発行部数は今では 21,000 部までに。発行した各号は児童館やコンビニエンスストアなどの協力を得て県内全域に無料で配布しています。



#### 厚生労働大臣賞

##### ■給食人サークル (京都府京都市)

～離乳食を通じて子育ての悩みを解決する「まちのきゅうしょくしつ」を開催～

離乳食は赤ちゃんが食事と初めて出会う場であり、食事と向かい合う大切な機会。一方で、初めての離乳食づくりに悩む親も多くいます。給食人サークルでは、保育園で調理師や栄養士として働いた経験を持つメンバーが中心となり、初めての離乳食づくりをサポートする活動「まちのきゅうしょくしつ」を京都市内 4ヶ所で毎月開催。離乳食づくりに加え、さまざまな食材の紹介もあわせて行うことで、メニューのレパートリーを増やしなが、赤ちゃんの月年齢に応じた離乳食をひと月ごとに学ぶことができます。目の前で離乳食をつくり、親子で試食してもらいながら、調理法等をレクチャーすることで、各家庭の状況に寄り添ったきめ細かなアドバイスができるよう心掛けています。



### スミセイ未来賞 10組

##### ■特定非営利活動法人 田舎のヒロインズ (熊本県阿蘇郡)

～女性農家の視点を活かした、ユニークな農業体験プログラムを実施～

全国の女性農家がつながりを持ち、「日本の田舎をつなぐ」をモットーに、田舎のあり方や農を営む女性の生き方を模索し、提案・提言していくための活動をしています。都会に暮らす子どもたちを農山村で受け入れてきた経験を活かし、豊かな農村を次世代へつないでいく「アクション」にも取り組んでいます。今年は農業経営が学べる合宿「リトルファーマーズ養成塾」を実施しました。今後は「リトルカーペンターズ養成塾」や「フィッシャーメンズ養成塾」、農山村での子どもたちの国際交流事業への展開を計画。



## ■特定非営利活動法人 <sup>たたい</sup>ぎふ多胎ネット（岐阜県多治見市）

～多胎家庭への切れ目のないサポートで、安心して出産・子育てできる環境の整備を推進～

多胎家庭は社会的に孤立しがちで、単胎家庭に比べて虐待リスクが高いとも言われます。多胎育児経験者が中心に当事者目線の支援を行うことで、安心して多胎児を産み育てることのできる社会の実現を目指しています。多胎児の出産を控える家庭に向けた「多胎プレパパママ教室」や妊産婦に対する「病院サポート訪問」に始まり、育児の不安や悩みを個々に相談できる「家庭訪問」、介助も含めた「多胎児健診サポート」、そして未就園児をもつ多胎家庭が交流できる「多胎育児教室」など、妊娠期から子育て期までの各段階に応じた切れ目のない支援に取り組んでいます。また社会の理解を深め、支援の輪を広げられるよう『多胎白書』の発行や研修プログラムの開発なども精力的に行っています。



## ■<sup>コバ</sup>KOPA(Kids Outdoor Play Activity)（東京都世田谷区）

～都会に暮らす乳幼児に外遊びの場を提供する「プレーリヤカー」で公園を巡回～

都会では外遊びを存分に楽しむことのできる場が年々少なくなっているのが現状です。そうした状況から、街中の公園を子どもたちの外遊びの場としてより有効に活用するための「プレーリヤカー」の巡回を開始。「プレーリヤカー」には遊具が積み込まれており、いつもの公園も外遊びが存分に楽しめる空間に変わります。子どもたちがのびのびと外遊びを楽しむ傍ら、親同士のコミュニケーションも自然と生まれ、情報交換や交流の場にもなります。この取組みは現在、世田谷区内7つの団体で導入され、年間の実施回数は150回に。未実施地域からの実施要望も強く、今後は講演会・講習会を通じて「プレーリヤカー」のノウハウや効果も伝えていきます。



## ■NPO法人 女性と子ども支援センターウィメンズネット・こうべ（兵庫県神戸市）

～困難を抱える女性やひとり親家庭のための居場所づくりと、貧困の連鎖を断ち切るための学習支援を実施～

DV被害により離婚された女性の生活再建が非常に厳しいという現実を受け、DVの後遺症、貧困、子育ての困難など、さまざまな問題を抱える女性やシングルマザーたちを支援するために、2013年に「WACCA(わかか)」を設立。心の回復や経済的自立をサポートするための活動を行っています。ひとり親家庭を対象にした「WACCA塾」では、経済的な理由等により通塾が困難な家庭の子どもたちを受け入れ、無料で学習支援を実施。シングルマザーを対象にした保育つきの学習支援「WACCA スクール」では、高卒認定試験合格や資格取得を目指す母親の支援を行っています。また孤立感を解消し、安心して過ごせる居場所「シングルマザーズ・カフェ」も運営。





## ■NPO法人 ソーシャルデベロップメントジャパン（東京都足立区）

～0～18歳までの重症心身障がい児のための通園施設と、障がい児相談支援事業を運営～

乳幼児期から学齢期までの重症心身障がい児の医療的ケアの需要は高いにも関わらず、対応できる施設は不足しています。ソーシャルデベロップメントジャパンでは、親子分離型通園施設「療育室つばさ」を開設。就学前の重症心身障がい児の受入れと日中の活動提供を行っています。子どもたちが外の世界にふれ、同年齢の子どもたちと過ごすことのできる時間を積極的に設けられるように音楽療法、感覚遊び、読本、リハビリなど多岐にわたる活動に加えて、遊園地や動物園への外出、近隣の保育園との交流なども定期的に行っています。今後は、多様化する支援ニーズに対応できる体制づくりを地域と協力しながら進めていきます。



## ■特定非営利活動法人 多文化共生センター大阪（大阪府大阪市）

～外国にルーツを持つ子どもたちのための学習支援教室を開催～

大阪市西淀川区は全国的にみても外国人住民の割合が高く、不安定な雇用や母子家庭のため育児・教育に不安を抱えている家庭も少なくありません。その現状を把握するため、多文化共生に関する調査や啓発を含む各種支援活動を行ってきました。主な活動は、学習支援教室の実施と学習相談支援員の派遣を中心に展開。週1回開催している学習支援教室では、外国にルーツを持つ小中学生の基礎学力の向上や日本語の習得を手助けしています。学習相談支援員の派遣活動では、家庭訪問を通じて、生活全般に関して広く相談に乗り、外国人住民が抱える孤立感の解消に取り組んでいます。今後は、地元商店街や行政などの協力を得ながら、言葉や文化の違いから生まれる課題やニーズをより詳細に把握し、それを実効性のある政策提言にまでつなげていくことを目指します。



## ■チーム WeB（兵庫県姫路市）

～車いすバスケの体験型交流会を通じて、ノーマライゼーション社会の実現を目指す～

障がい者に対する社会インフラは整備されつつある一方で、その生活に対する理解はまだ十分とは言えません。「障がい者スポーツを通じ、真に豊かな生活を考え、ノーマライゼーションの実現を図る」ことを理念として掲げ、県内外の学校を訪問。車いすバスケットボールの体験型交流会を開催しています。交流会では、車いすバスケットボールの説明に始まり、選手によるデモンストレーション、生徒たちの体験乗車、ミニゲームなどを実施。また、啓発と体験の機会を広く提供するために、さまざまな団体と連携して一般市民向けの「車いすバスケ教室」も定期的に開催。障がい者スポーツの振興や、ノーマライゼーション社会の実現を目指しています。



## ■特定非営利活動法人 未来図書館（岩手県盛岡市）

～大人の想いにふれて、子どもたちが自らの将来をイメージする機会を～

人口流出など地方都市の厳しい現実に加えて、震災からの復興という大きな課題を抱える岩手県では、地域に根差したキャリア教育が求められています。一方で、将来に夢を描けない若者が増えている現状に対し「未来パスポート」「かだる」というプログラムを通じて、子どもたちと社会をつなぎ、仕事や将来について考える機会を提供する活動を展開。「未来パスポート」は小中高校生と社会で活躍する大人（社会人講師）の交流を目的としたグループワークで、社会人講師が自らの経験を語り、子どもたちが質問を投げかける対話を通じて、将来の姿を思い描ききっかけづくりを行っています。また、「かだる」は中学生から20代前半の生徒・若者を対象に、ひとつのテーマを掘り下げて真剣に語り合い、人と「通じあう」楽しさを体感し、「自分の言葉」で語るコミュニケーションの大切さを伝えています。



## ■特定非営利活動法人 ユースコミュニティ（東京都大田区）

～地域住民や地元商店などが協力して子どもたちの学力と社会性を育む～

学習環境の違いが進学率に影響を及ぼすなど、教育の格差が社会問題になっています。子どもたち自身が「学び方を学ぶ」ことを目的とした「自由塾」を立ち上げ、経歴も年齢もさまざまな70名を超えるボランティアスタッフとともに、小学4年生から中学生までの子どもたち（計300名）の学習をサポートしてきました。卒業生のほとんどが高校受験で合格を果たすなど、学力向上の面で大きな成果を挙げるほか、基礎学力に加えて豊かな社会性をも育むために、食育や自然観察をテーマにした課外授業・レクリエーション活動なども定期的に行っています。



## ■一般社団法人 ユメ・フルサト（愛知県豊田市）

～あたたかな地域コミュニティを再生するために、地域通貨を活用した「こども夢の商店街」を開催～

地域の学校や商店、NPO、行政などと連携しながら、「こども夢の商店街」を開催しています。「こども夢の商店街」に参加する子どもたちは、自ら出店する「お店屋さん」やハローワークで見つける「オシゴト」を通じて、地元の商店街でも使用できる「おむすび通貨」を入手します。「おむすび通貨」は人と人を結び、お金で換算できない価値をやりとりすることのできる物々交換に着想を得た米本位制の地域通貨で、地元の商店街などで使用可能です。子どもたちは、実際の仕事や買い物にできるだけ近いリアルな体験を通じて自発性や創造力を身につけていきます。三河地方を中心にこれまで20回以上にわたって開催し、来場者数はのべ7万人を数え、子どもの参加者のうち約4割をリピーターが占めるイベントになりました。



## スミセイ震災復興応援特別賞 3組

### ■特定非営利活動法人 青空保育たけの子（福島県福島市）

～子どもたちに外遊びを楽しんでもらうため、福島から山形県米沢市への移動保育を実施～

東日本大震災に伴う原発事故以降、福島では子どもたちを自然のなかで安心して遊ばせることが難しくなりました。「青空保育たけの子」では福島市から放射能の影響が少ない山形県米沢市まで子どもたちと一緒に移動し、外遊びや自然体験の機会を提供する移動保育を実施。またピザづくりやハンドクラフトといった自然の豊かさや恵みを五感で感じることでできるイベントも定期的に開催しており、福島市と米沢市の周辺地域に暮らす親子をつなぐ交流の場にもなっています。



### ■NPO法人 子育て応援おおきな木（熊本県上益城郡）

～被災した子どもたちのための遊び場支援と、仮設住宅を訪問する巡回型サロンを実施～

親子で過ごせる場所、親同士が育ちあえる場所を提供するため、子育て家庭の交流の場「つどいの広場とんとん」を運営。他にも各種講座の開催、ファミリーサポート事業などに加えて、震災直後から新たに「週末の小学生の遊び場支援活動」に取り組んでいます。被災した子育て家庭が家の片付けに専念できるよう、週末限定で子どもたちを受け入れる広場の活動としてスタートしましたが、現在はさまざまな分野の専門家の協力のもと多彩なプログラムを実施。また子育て中の母親の相談に乗ったり息抜きの時間を提供したりするために、町内の仮設住宅 16ヶ所を定期的に訪問してサロンを開設する巡回事業も新たに取り組んでいます。



### ■相馬助産所（福島県相馬市）

～被災地に暮らす母子をサポートする助産師のいる子育てサロンを開催～

津波と原発事故の被害が大きかった福島県相馬地域で助産所を開設し、不安や孤独を抱えながら子育てを行っている母親たちの心身のリフレッシュを目的にしたサロンを開催。子育てサロンではベビーマッサージや赤ちゃん体操、産後ヨガなどのプログラムを実施。参加者同士で自然と輪ができて情報交換が行われるなど、母親たちにとって交流する機会になっています。障がい児とその母親が集うサロン「おひさまクラブ」でも、各種勉強会などの企画を通じて母親同士の情報交換や交流を図っています。さまざまな支援活動を円滑に行えるよう、行政や病院、保健所などとのネットワーク強化にも引き続き取り組んでいます。



## ◎女性研究者への支援 10名

### スミセイ女性研究者奨励賞 10名

<sup>いいつか まゆみ</sup>  
■飯塚 真弓:高崎経済大学 地域科学研究所

<研究テーマ>

南インドのヒンドゥー教寺院司祭集団をめぐる宗教実践とその変貌

<sup>いのいえ はるこ</sup>  
■井家 晴子:国立民族学博物館

<研究テーマ>

帝王切開をめぐる社会文化的背景と医療技術をとりまく妊産婦の身体観  
-日本とオランダの臨床現場での比較を通して-

<sup>いのうえ なおみ</sup>  
■井上 直美:日本貿易振興機構 アジア経済研究所

新領域研究センター「ビジネスと人権」プロジェクト

<研究テーマ>

開発途上国で操業する企業の人権尊重の取り組みとその影響を探る

<sup>きくち みゆき</sup>  
■菊池 美由紀:名古屋大学大学院 教育発達科学研究科

<研究テーマ>

大学生のキャリア科目における学び

<sup>さわだ あや</sup>  
■澤田 彩:大阪市立大学 経営学研究科

<研究テーマ>

太陽光発電システム産業の国際比較分析研究

<sup>しまうち さえ</sup>  
■嶋内 佐絵:横浜市立大学 国際総合科学部 非常勤講師

<研究テーマ>

高等教育におけるカリキュラムの国際化と「国際教養」の地域間比較教育研究

<sup>ちよう しょうらん</sup>  
■張 勝蘭:早稲田大学 総合人文科学研究センター 助手

<研究テーマ>

貴州高坡苗族伝統社会とその文化の変遷

<sup>の ふえなん</sup>  
■盧 回男:日本女子大学 現代女性キャリア研究所・人間社会学部心理学科

<研究テーマ>

韓国と日本における、女性のアイデンティティの生涯発達の比較研究

<sup>ふしみ ゆうこ</sup>  
■伏見 裕子:立命館大学 非常勤講師

<研究テーマ>

発達障がいとの早期発見をめぐる歴史と意味—母子保健との関連を中心に—

<sup>よこやま あきこ</sup>  
■横山 晶子:一橋大学 社会学研究科

<研究テーマ>

危機言語の言語継承に向けた教材開発研究



## <住友生命社会貢献事業『未来を強くする子育てプロジェクト』概要>

主催： 住友生命保険相互会社  
後援： 文部科学省、厚生労働省  
審査員： 選考委員長 汐見 稔幸氏（白梅学園大学学長・東京大学名誉教授）  
選考委員 おおひなた まさみ 大日向 雅美氏（恵泉女学園大学学長）  
おくやま ちづこ 奥山 千鶴子氏（特定非営利活動法人びーのびーの理事長）  
よねだ さちこ 米田 佐知子氏（子どもの未来サポートオフィス代表）  
こがわ ひさと 古河 久人（住友生命保険相互会社 執行役常務）

### 【子育て支援活動の表彰】

募集内容： より良い子育て環境づくりに取り組む個人・団体を募集します。各地域の参考になる特徴的な子育て支援活動を社会に広く紹介し、他地域への普及を促すことで、子育て環境を整備し、子育て不安を払拭することを目的としています。

応募要件： ◆子育て支援に資する諸活動を継続的に行っていること。  
◆活動内容が社会に認められ、ロールモデルとなりうるものであること。  
◆活動の公表を了承していただける個人・団体であること。  
◆日本国内で活動している個人・団体であること。  
◆震災復興応援特別賞の対象については、東日本大震災などの大きな災害における被災者の支援、復興のために子育て支援活動を行う個人・団体であること。

表彰： ◆文部科学大臣賞（スミセイ未来大賞受賞者の1組に授与）／表彰状  
◆厚生労働大臣賞（スミセイ未来大賞受賞者の1組に授与）／表彰状  
◆スミセイ未来大賞 2組 / 表彰状、副賞 100万円  
◆スミセイ未来賞 10組 / 表彰状、副賞 50万円  
◆スミセイ震災復興応援特別賞 3組 / 表彰状、副賞 50万円

応募数： 計 190組

### 【女性研究者への支援】

募集内容： 育児のため研究の継続が困難となっている女性研究者および、育児を行いながら研究を続けている女性研究者が、研究環境や生活環境を維持・継続するための助成金を支給します。人文・社会科学分野における萌芽的な研究の発展に期待する助成です。

応募要件： ◆人文・社会科学分野の領域で、有意義な研究テーマを持っていること。  
◆原則として、応募時点で未就学児（小学校就学前の幼児）の育児を行っていること。  
◆原則として、修士課程資格取得者または、博士課程在籍・資格取得者であること。  
◆2名以上の推薦者がいること（うち1名は、従事した、または従事する大学・研究所等の指導教官または所属長であることが必須）。  
◆現在、大学・研究所等に在籍しているか、その意向があること。  
◆支援を受ける年度に、他の顕彰制度、助成制度で個人を対象とした研究助成を受けていないこと（科研費・育児休業給付などは支給していても応募いただけます）。  
※この事業では、過去の実績ではなく、子育てをしながら研究者として成長していく方を支援したいと考えています。そのため、研究内容のみで判断することはありません。

※国籍は問いませんが、応募資料等への記載は日本語に限ります。

表彰： ◆スミセイ女性研究者奨励賞 10名 / 表彰状、助成金1年間100万円(上限)を最大2年間支給。

※支給期間は平成29年4月から平成31年3月までの2年間

応募数： 計 126名